



# 佐々先生の 海外・帰国 あれこれコーナー

このコーナーでは、いろいろな立場の人たちの声を聞きながら、特に海外に住んでいる保護者の方々に役立てていただける情報や、参考になる考え方などを提供していきます。

取り上げてほしいテーマ、ご意見、ご感想などをお知らせください。皆様の声を聞きながら、このコーナーをできるだけ実際に役に立つものにしていきたいと思っています。連絡は、Eメールで、[sasa@keimei.ac.jp](mailto:sasa@keimei.ac.jp) までお願いいたします。

## 啓明学園中学校・高等学校 校長 佐々 信行（さっさ のぶゆき）

ハンブルク補習校、帰国子女受け入れ担当（横浜市）、日本語イマージョン・プログラム教諭（バージニア州）・ワシントン補習授業校を経て、現職。

### 海外入試

啓明学園では、2002年からアメリカで編入・入学試験を行っています。昨年も、11月の半ばに5つの都市（シカゴ・デトロイト・ニューヨーク・サンノゼ・ロサンゼルス）で試験を行いました。

海外入試の時には、試験の合間に、教育関係者の方々にお目にかかったり、学校などの見学をさせていただいたりして、子どもたちの様子や、子どもたちをめぐる最新の状況取材します。編入してくる生徒たちがどのような生活をしてきたのかを知るとは、生徒たちを理解するためにたいへん役に立ちます。

今年は、シカゴとデトロイトで、日本人の生徒が通っているユニークな学校を訪問しました。簡単にご紹介しましょう。

#### ◆シカゴの二言語プログラム

##### Dual Language Program

シカゴでは、Thomas A. Dooley Elementary School を訪問しました。ここには、Dual Language Program という、英語と日本語を授業の言語として使うプログラムがあります。

Dual Language Program のコーディネーターでもある副校長の Mrs. Marion Friebus-Flaman 先生は、帯広畜産大学で英語を教えたことがあり、日本語も大変上手です。Dual Language Program では、英語が第一言語である子どもたちと日本語が第一言語である子どもたちはほぼ同数で一つのクラスを編成し、授業は科目によって英語と日本語を交代に使って行きます。私が以前ヴァージニア州で関わっていたイマージョンプログラムでは、生徒のほぼ全員がアメリカ人で、日本語は全くの「外国語」でしたが、この学校では両方の言葉を家庭で使っている子どもたちが混じっているのが、子ども同士が自然な表現を耳にすることができ、生徒同士が得意な言語を教え合うこともできます。日本人の家庭が多い地域であることを、アメリカ人の子どもたちにとっても貴重な学習の場として生かそうと考え出されたプログラムです。

ただ、日本人の生徒は、保護者が駐在員などのため数年しか滞在しない場合が多く、日本語の得意な生徒が帰国して、人数のバランスが崩れてしまうのが悩みの一つだそうです。

この学校には、英語の不得意な子どもたちのために、その子の第一言語ができる先生が指導する Bilingual Program もあります。見せてもらった5、6年生のクラスは10人ほどの生徒全員が日本から最近来た子どもたちでした。したがって、先生は必要があれば日本語で学習のお手伝いをしていました。

この学校では、指導力向上のため、先生たちが Professional Learning Community というチームを作って学び合い、助け合うようにしたり、特に指導が必要な生徒には、ソーシャル・ワーカーや心理士が援助するようになっていたり、新しい発想のシステムも採用して、子どもたちの必要に応えられるようにいろいろな工夫がなされています。

#### ◆デトロイトの国際クラス

##### Multi cultural, multi aged class

デトロイトで訪れたのは、Beechview Elementary School です。ここには、Multi cultural, multi aged class というクラス



Beechview School にて